

2020/10/9

(うとQ世話し 詐欺被害 身の上扁)

コロナ禍の影響で世の中が混乱する中、その混乱に乗じての詐欺行為とその逆の詐欺被害が多発しているようです。

かく言う自分も今年3月から今迄に、ネット上での詐欺被害に遭いそうになったことが3回あり、可成用心をしていた積りだったのですが、それとは全く別ルートで、何処かの誰かにクレジットカードが使われてしまい、全く身に覚えのない請求金額が突如ドカンと来たりもしました。

こうした折によく言われるのが

「騙す方も悪いが騙される方も悪い」

という物言い。

そして

「世の中には騙す奴と騙される奴。その二種類しかいない。どちらになるか、だけだ」

というご託宣。

この物言いを黙って聞いていると「すーっと」納得してしまいそうになりますが、落ち着いてよく考えてみると、実は重大な見落としをしている事に気づきます。それは

「世の中には騙す奴と騙される奴の二種類以外にも、騙さない奴と騙されない奴の合計4種類位は最低限居そうだ」

という事です。

二者択一ではなく四者択一。いや四者択二かもしれません。

これは試験問題でも同じで、

「五択の中から正解を一つ探さない」或いは「五択の中から誤っているものを一つ探さない」という設問は、現実世界では

「その数未確定の多沢の中から、合っているものと合っていないものを、適宜それぞれ回答しなさい。それぞれが幾つずつであるかは提示できません」

というのが普通です。

要するにヤマカンのヒントになりそうなガイドが一つも明示されていないのが普通です。

こうした現実世界での事実と照らし合わせてみると、五者択一はおろか四者択一自体が妙な設定であり、いわんやAかBかの選択を迫る二者択一といったもの(事象切捨、仮設定強要)は、短絡思考に付け込んだ「大いなるまやかし」であることに気づかされます。

詐欺行為というのは、この相手の「思い込みを巧みに利用して、更に思い違いを促す」行為と言えなくもありません。

自分のケースでは「ネットを利用した新手の詐欺にはもう騙されない力を得た」という思い込みから「極めてオーソドックスな古手の詐欺」に遭う様なお粗末をしてしまった事でしょうか。

ネットの新手詐欺の記事ばかり読んでいたので、そんな思い込みに陥ってしまいました。

記事の書き手に悪意はないのですが、この無意識での
「貴方の手間省き、絞り込み提示」さえ、自らへの過信も含めて十分ご注意召されまし。